

## 1 現状

### ◆県内市町村の計画策定状況

- 策定済市町内訳 11市、3町(未策定12町) **全村未策定** (平成30年3月31日現在)
- 計画策定状況 **県の策定状況35.9% は全国ワースト2位** (ワースト1位は北海道)
- 未策定の町村の状況(聞き取り)
  - ・県内町村、特に村では、**男女共同参画の担当者がいない(総務担当が兼務)**
  - ・**「努力義務」の計画は優先順位が低い**

### ◆全国の策定状況

- 全国で策定が進んでいない道府県の特徴
  - ・**「村」の割合が多い** (奈良県は全市町村の1/3が村)
- 村が多いのに100%策定済の県の理由(聞き取り) **三重県他3府県**
  - ・各自治体にある女性団体からの要望
  - ・熱心な有識者の首長への働きかけ

### ◆男女共同参画の地域の声から

- 奈良県男女共同参画県民会議の委員(音田会長他 委員45名)に「男女共同参画変わったこと、変わらなかったこと」のアンケートを実施、とりまとめ、議論 (7/24)
  - ・アンケート調査結果は、「**男女共同参画が進んだところもあれば、まだまだというところもある**」
  - ・**「女性の活躍」は地域においても、女性リーダーの増加等以前に比べ進んでいる。**
  - ・**社会的にも企業等の取組やLGBTへの理解等随分進んだイメージはある**
  - ・**ただ、男女共同参画がすすんだかという点、奈良県はデータにおいても、実感としてもまだまだではないか。**
  - ・**男女共同参画の視点は小さな自治体にこそ必要**

**「町村の計画策定を進めるため、キャラバン隊を組んで、村を回ってはどうか。県民会議をあげて協力したい」**  
(音田会長、梅田副会長)

### ◆有識者の声から \*どちらも市町村担当課長会議での講演内容から抜粋

#### ●埼玉大学 石阪教授 (社会学)

##### <地域の課題>

- ・人口移動が収束しない場合の2010-40の**若年女性の減少率50%超**の県内市町村  
→**26市町村が該当** (5市・9町・12村)
- <出展：日本創成会議人口問題検討分科会：戦慄のシミュレーション (2013.2) >

##### <今後必要な視点>

- ・人口の社会減対策：移住・定住促進、残留率UP
- ・人口の自然減対策：雇用対策、WLB、子育て支援

#### ●奈良県立大学 梅田准教授 (社会学)

##### <地域の課題>

- ・**多様化する生き方や価値観、家族形態に、そぐわない地域のシステムや地域の人びとの価値観・伝統**  
→ **若い世代の地域離れ、地域への不参加につながっている。**

##### <今後必要な視点>

- ・人口減少の深刻な地域においては、**多様な生き方の人々を受け入れられる社会環境の整備が必要。**
- ・**男女共同参画の視点が小さな村にこそ必要。**
- ・**計画策定に大事なものは、村のさまざまな人が一緒に考えて作ること。**

現状からの課題  
(わかったこと)

- ・ **小さな自治体にこそ 「男女共同参画」「多様性」の視点が必要**
- ・ **計画策定は地域にあったものにするため「地域の声」を入れる**

## 2 取組の方向性

### 「地域に身近な男女共同参画計画」の策定のための支援

◎計画策定の推進のために

① まずは、規模の小さな村をターゲットに

② 村と協働し、村の関係者が集まり議論する場を提供

③ 村の「できていること」「できていないこと」を浮き彫りに

④ 村の現状と課題をふまえ、その村にあった計画策定

